

阿妻一直の『札幌焼・盤溪窯』 生い立ちの記

独立時代（出会い）

一直焼・八軒窯（その4）

『サッポロ珈琲館』のご主人・伊藤栄一さんとの出会いにより、色々な発展に繋がりました。伊藤氏は、文化とか地域を大切に思っている方で、お店の珈琲豆も、炭火自家焙煎に、こだわりの持ち、文化やくつろぎと言った、心の贅沢を、珈琲を通して、お客様に提供したい。と、熱く話されまして、私も、



珈琲サッポロ珈琲館本店



阿妻一直氏
(筆者)

自分の器を通して、文化とか伝統とかを地域に根ざしたいし、心の贅沢を提供したいと、話が弾んだのを今も覚えてます。そこから、私の器も広く使って頂けるようになりました。私自身も、お店と、珈琲の味のファンになりました、お店から匂う、珈琲豆の焙煎の香りに酔いしれていました。伊藤さんから、お店の建物内かとの、話を頂き色々計画や段取りを進めていきました。そんな折、昭和六十二年頃に御店の移転の話があり、移転先の場所を探していると聞き、私も探して歩きました。

私の思い当たる場所があり、そこを提案しました。

その場所の持ち主は地主さんでもあり、やはり地域に広く貢献している方で、その方を頼ってはどうかと提案しました。

間もなくその地主さんから場所の紹介があり、移転先の建物が決まったとの知らせをもらいました。

その建物は大正時代の鉄筋コンクリートの建築物で、北海道工業試験所の建物でした、その建物は他にも数棟建てましてその中の一棟に決まりました。

既に二階部分数件の住民が住んでいましたが、その建物の一階部分を表の外観も含めてリフトアップし、オーナーのセンスが生かされたレトロ感に溢れた素敵なお店に生まれ変わりました。

平成元年、サッポロ珈琲館が新装オープンしました。

店内では、午後からの、サッ

ポロ珈琲のこだわりとして、北海道内の陶芸作家の珈琲に関連する器を取り扱い、お店を通して道内の陶芸を広めたいとの、伊藤氏の思惑もあり、私に、相談がありました。

お店の正面のドアを開けますと、広い空間があり、その空間を、北海道陶芸作家の、特設ギャラリーとなりました。

私の展示コーナーも、頂くことができ、展示させて頂き、札幌焼八軒窯 陶芸教室も、開設するに至りました。

伊藤氏の秘めたる思いには、新しいお店には色々な文化に携わっている色々な方の集まる場所でありたい、又はそこから色々な情報や文化の出発点にしたいとの思惑もあり、地域に根ざした文化カルチャ教室を設立しスタートして行き、色々な活動をしている多種の教室が立ち上がりました。